



一般社団法人 電波産業会  
Association of Radio  
Industries and Businesses

No.1329 2022年10月24日

### 10月は「受信環境クリーン月間」です

受信環境クリーン中央協議会では、例年10月1日から10月31日までの間を「受信環境クリーン月間」と定め、放送電波受信障害防止に向けた集中的活動を実施しています。会員の皆様も電波障害の防止になお一層のご協力をお願いします（詳細はARIBニュース No.1322 2022年9月5日を参照ください）。

### ARIBの動き

#### ITU-R WP7A 会合における時刻標準関係の概要報告

WP7A (Working Party 7A : 7A 作業部会) は、ITU-R の SG7 (Study Group 7 : 第7 研究委員会) の下に設置された専門家会合で、標準時及び標準周波数の通報について検討しており、通常年 2 回程度開催されています。

#### 1. 会合の概要

日 程： 2022年9月29日(木)～10月6日(木)

場所・形態： スイス・ジュネーブ (Web 会議併用)

参加者： 各国、各団体から約90名が参加 (日本は、総務省基幹・衛星移動通信課 作田分析官を団長に9名が参加。当会からは横山次長が参加。)

#### 2. 時刻標準に関する主要結果

現行の協定世界時(UTC)は国際単位系に基づく時刻であり、地球の自転に基づく時刻(UT1)との差が±0.9秒以内になるよううるう秒を挿入して調整しています。しかし、うるう秒挿入は不定期に発生し、その都度、さまざまな社会インフラシステムの時計を1秒ずらさなければなりません。これは、単に不便であるだけでなく、時刻が不連続となるため、高度に進展したICTに対して不具合を引き起こす恐れがあります。このため、2015年に開催された世界無線通信会議(WRC-15)において、うるう秒調整を廃止することも含め、UTCの見直しが審議されました。しかし、成案を得ることができず、WRC-23で再審議することとなりました。

WRC-15の後、WP7Aでは、UTCの維持管理を担うメートル条約関係の国際機関と協力して、UTCにおいてうるう秒を廃止した場合の影響や無線通信での報時信号の配信等に関

する ITU-R 報告を作成してきました。他方、本年（2022 年）11 月に開催されるメートル条約関係の総会（国際度量衡総会）では、2035 年までに実質的に UTC のうるう秒調整を廃止し、連続時系に移行するとの決議案が審議される予定であり、ITU-R 報告はこれに沿った内容となっています。

この ITU-R 報告は、約 6 年間に及ぶ検討を経て今回会合で完成し、その直後に開催された SG7 会合で承認されました。

### 3. 次回会合

次回 WP7A 会合は、2023 年 6 月 26 日（月）～30 日（金）に開催予定です。

## ITS Radiocommunication Experts Meeting を開催

ARIB が事務局を務める ITS 情報通信システム推進会議（以下 ITSF）は、10 月 14 日（金）に海外専門家との意見交換会「ITS Radiocommunication Experts Meeting」を開催しました。

1. セミナー名称： ITS Radiocommunication Experts Meeting
2. 日 時： 2022 年 10 月 14 日（金）15:30～17:45
3. 場 所： 赤坂インターシティコンファレンス the AIR (2/3)
4. 主 催： ITSF 国際対応専門委員会
5. 参加者数： 約 40 名 （本セミナーは、ITSF 会員向けとして開催）

開会にあたり、総務省 総合通信基盤局 電波部 新世代移動通信システム推進室長 増子 喬紀 氏より、日本では 2020 年に協調型自動運転向けユースケースとそのための V2X 通信の要件、およびそれに向けたロードマップなども検討したが、一部のユースケースでは 20MHz 以上の帯域幅が必要とされており、日本の V2X システムに対する新しい周波数割り当てにむけた価値のある議論を期待する、とのご挨拶をいただきました。

セミナーは、ITSF 国際対応専門委員長 山本 武志 氏の司会進行で開催されました。Short Presentations と Discussions から構成され、Short Presentations では京都で開催された SIP-adus Workshop2022 の Connected Vehicle 関連セッションに参加された海外専門家から、欧米における ITS や V2X に関わる取り組み状況について紹介されました。

- (1) “C-ITS Infrastructure deployments in europe” と題して、Austria Tech.(C-Roads) の Martin Böhm 氏より、C-ROADS への参加国、V2X 用路側機の実装状況、C-Roads Platform の概要、ハイブリッド通信とコア要素としてのセキュリティについてご紹介いただきました。
- (2) “C-ITS in Europe” と題して、CAR 2 CAR Communication Consortium の Niels Peter Skov Andersen 氏より、C-ROADS など関係者間の連携の重要性、車載通信の

ニーズと車車間通信によるアクティブセーフティなどの関連ユースケースとロードマップ、Collective Perception とその効果などについてご紹介いただきました。

- (3) “Importance of Collective Perception, V2X spectrum needs, expectation on Euro NCAP” と題して、Continental AG の Bettina Erdem 氏より、欧州で V2X 向け利用を想定している CPM (Collective Perception Messages) などのメッセージセットとそのためにより必要と考えられる周波数幅などについてご紹介いただきました。
- (4) 5G Automotive Association の Maxime Flament 氏より、5GAA の紹介、5GAA が想定する C-V2X のロードマップ、MEC の利用、C-V2X 実装の世界および米国、中国、欧州、韓国の動向についてご紹介いただきました。
- (5) “Status of V2X in the United States” と題して、Toyota InfoTech Labs の John Kenney 氏より、FCC や US-DOT における Regulation 状況、および SAE や IEEE, 3GPP における、V2X 用通信技術の標準化動向についてご紹介いただきました。

Discussions では、国立研究開発法人情報通信研究機構 小山 敏 氏の進行により、これまでの V2X 導入活動から得られた成果や課題、教訓の振り返りや、次のステップに向けた課題、新しい活動、可能な協力関係などへの期待、今回の議論で得られた知見や日本への質問または期待について、意見交換が行われました。

当日は ITS 関連省庁・団体、会員企業から約 40 名にご参加いただき盛況のうちに終了しました。



会場の様子



ITSF  
国際対応専門委員長  
山本 武志 氏



国立研究開発法人  
情報通信研究機構  
小山 敏 氏



Austria Tech.  
(C-Roads)  
Martin Böhm 氏



CAR 2 CAR  
Communication Consortium  
Niels Peter Skov Andersen 氏



Continental AG  
Bettina Erdem 氏



5G Automotive Association  
Maxime Flament 氏



Toyota InfoTech Labs  
John Kenney 氏

### 今週の ARIB 内会合（10月24日～10月28日）

- 10月26日（水）：放送国際標準化ワーキンググループ 放送国際標準化 WG&SWG Web 会議
- 10月26日（水）：スタジオ設備開発部会 スタジオ音声作業班 Web 会議併用
- 10月26日（水）：第312回技術委員会（放送分野） Web 会議併用
- 10月27日（木）：第191回 ARIB 電波利用セミナー オンラインセミナー
- 10月28日（金）：デジタル放送システム開発部会 地上放送高度化方式検討 TG Web 会議

### 今週の国際会合（10月24日～10月28日）

参加を予定している会合はありません。



Association of Radio Industries and Businesses

ARIB NEWS  
発行所

一般社団法人 電波産業会

☎100-0013 東京都千代田区霞が関一丁目4番1号 日土地ビル11階  
TEL 03-5510-8590 FAX 03-3592-1103  
<https://www.arib.or.jp> E-mail [arib\\_news@arib.or.jp](mailto:arib_news@arib.or.jp)